

## 加須の偉人（平成27年6月現在 7人）



## 【齋藤与里】

## 日本の近代洋画の旗手

加須市下樋遣川生まれ。京都やフランスで絵画を学ぶ。帰国後、ゴッホやゴーギャンなどの絵画を日本に紹介。明治期末～大正期の洋画界の発展に多大な貢献をされた。

1885(明治18)～1959



## 【河野省三】

## 教育者・神道研究家

加須市騎西生まれ。国学院大学で漢文・歴史を学び、卒業後は、玉敷神社社務を務める傍ら、国学院大学等で教鞭をとる。昭和10年、国学院大学出身者として初の学長に就任した。

1882(明治15)～1963



## 【田中正造】

## 明治期の社会運動家

佐野市生まれ。魚や農産物に被害を与えていた足尾銅山鉱毒に苦しむ渡良瀬沿岸の住民救済に奮闘。政府の谷中・利島・川辺の遊水地化に反対し、住民と共に不休の活動を続けた。

1841(天保12)～1913

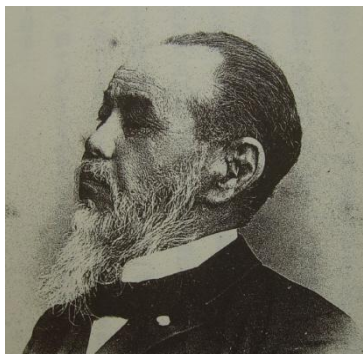


## 【下總皖一】

## 日本の近代音楽の基礎を築いた音楽家

加須市砂原生まれ。現・東京芸術大学で作曲法を学ぶ。和声学の神様と言われ、たなばたさまや野菊等の有名曲がある。作曲した曲数は2千とも3千とも言われる。

1898(明治31)～1962



「東京大学医学部細胞生物学/解剖学教室所蔵」



## 【田口和美】

## わが国解剖学の父

加須市小野袋生まれ。東京大学医学部初代解剖学の教授を務め、教え子に森鷗外や北里柴三郎がいる。日本人によって書かれた最初の体系的解剖書を執筆するなど、わが国の医学発展に多大な貢献をされた。

1839(天保10)～1904

## 【谷山豊】

## 難問に挑んだ世界的数学者

加須市騎西生まれ。数学界で平成5年に証明されるまでに360年かかった難題「フェルマーの最終定理」を解く鍵を握った「谷山-志村予想」を提唱した。数学界に多大な貢献をされた若き世界的数学者。

1927(昭和2)～1958

## 【若林珣蔵】

## わが国初の実用速記者

加須市中央生まれ。明治17年の埼玉県議会や明治23年の帝国議会の議事録作成に速記の導入を成功させた。23年間にわたり衆議院議事録作成の重鎮として活躍するなど、速記の普及に多大な貢献をされた。

1857(安政4)～1938